

---

# 発達理論の学び舎

Back Number: Vol 113

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」

---



---

## 目次

- 2241. クラニオセイクラル・バイオダイナミクスと臼井靈気
- 2242. 心のゆとりと固有の生命時間
- 2243. 11日目のインターン
- 2244. この世界に仕える存在として
- 2245. 標準化分散解析の理解
- 2246. この世界の使者として
- 2247. 来季からのプロジェクトについて
- 2248. 攻撃性と創造性
- 2249. 技術的・精神的なスキヤフォールディング
- 2250. 季節の変動と協働者の方との対話より
- 2251. (データの紛失)
- 2252. (データの紛失)
- 2253. (データの紛失)
- 2254. (データの紛失)
- 2255. (データの紛失)
- 2256. (データの紛失)
- 2257. (データの紛失)
- 2258. (データの紛失)
- 2259. (データの紛失)
- 2260. (データの紛失)

夕方に何気なく雲の動きを眺めていたところ、雲が流れる方向がいつもと逆であるように思えてとても驚いた。確か過去にもこのようなことがあったように思う。上空に吹く風がいつもとは逆方向になるという現象の背後にはどのようなメカニズムがあるのだろうか。

雲の流れがいつもとは逆であることに気づきながら、ふと、東洋思想をじっくりと学びたいという思いが湧き上がってきた。特に、人間発達に関する東洋思想を学びたい。

これまで西洋的な科学コミュニティの中で人間発達に関する探究を進めてきたが、これからもそうした形で探究が進んでいこう。そうした中であって、雲の流れを逆にすると同じように、これまでの探究の枠組みとは全く異なるものをゆっくりと学んでいきたいという思いが湧いてきたのは自然なことなのかもしれない。

もちろん私は、西洋思想の枠組みにおいても人間発達の探究をより進めていく必要がある。特に、西洋の哲学的な観点については全くもって未だ門外漢である。そうしたことから、人間発達に関する西洋思想についての探究を進めていきながらも、今後は東洋思想を着実に探究していく必要があると思っている。こうした思いは以前から時折現れることがあったが、ここ最近はあまりそうした思いになることはなかった。

とにかく、科学的な枠組みだけをもってして人間発達を探究しないようにくれぐれも気をつけたい。また、人間発達を探究するということはすなわち、社会の発達についても考察を広げていくことを意味していることにも気をつけなければならない。

いつもとは逆向きに流れる雲を眺めながらそのようなことを思った。

学術書と論文を随分と読み進めた後に、論文を本棚に戻しに行こうとした。その時に、偶然ながら私が三年前に日本にいた時に学んでいた「クラニオセイクラル・バイオダイナミクス」と「臼井靈気」に関する資料に目が止まった。どちらも共に、私が一年間お世話になっていた施術師かつ知人の方から学んだものである。当初の頃は、私は単に施術を受ける側だったが、「今後欧米で生活

---

を続けていく中で、優れた施術者に出会わない可能性もあるから自分で施術できた方がいい」というその方の勧めもあり、二つの興味深い治療方法について学びを得る機会を得た。

日本にいる間は、二週間に一度の頻度でその方のところに通っていたように思う。有り難いことに、私はそれら二つの技法について無償で教えてもらうことになり、靈気に関しては認定証までいただいた。

この三年間、それら二つの治療方法を活用して仕事を行うことは一切なかったのだが、振り返ってみるとこの三年間はそれらの手法を自分自身に活用し続けていたように思う。ある時期を迎えると、意識的ではなく無意識的にそれらを活用するようになり、またしばらくすると意識的に活用するようなサイクルがあった。

今日改めて、教えを受けている時に頂いた資料に目を通してみると、人間のヒーリング機能についてまた色々と新たな発見があった。正直なところ、三年前の時点においては、単に施術を受けるだけで十分だと思っていたのだが、自分に対して最低限の施術ができるようになったことは、欧州での生活を深く支えていると今になって思う。日々の心身の充実ぶりは、おそらくその方から学んだそれら二つのヒーリング方法によるものが大きいだろう。

フローニンゲンの輝く夕日とバッハが作曲した合唱の双方から、心身に浸透していく強いエネルギーを感じることは、あの時の学びとこの三年間の小さな継続的実践があったからだと思う。

フローニンゲン:2018/3/11(日)18:01

#### No.860: Elaborating the research

During the meeting, I received a number of beneficial feedback from my supervisors. First, I should have clarified the research purpose and theoretical frameworks; hypothetical frameworks are fine. In addition, I should have put my hypothesis in the analysis report. I forgot to include it.

Second, I have to specify the data type. This research focuses on spoken texts in MOOC lectures. Yet, I didn't mention what types of data are used; e.g., whether I used written or spoken texts.

---

Third, I'll utilize test scores instead of quiz scores because each test is more comparable and because the difficulty of each quiz is more varied.

Fourth, I need to combine the data in terms of lecturers. In other words, I have to collect data for each lecturer because the contents (spoken texts) of the MOOC depends on a lecturer. Also, I have to focus on contents videos rather than introductory and summary videos because the latter videos do not include much course-related sentences. Groningen, 11:13, Friday, 3/16/2018

### 2242. 心のゆとりと固有の生命時間

時刻は夜の八時を迎えた。一日を振り返ってみると、今日はとても充実した日曜日だったように思う。今日の午前中に改めて、書くことが持つ自己組織化作用について考えていた。また、それに伴って、書くことが内在的に持つ治癒や変容の効果についても考えていた。

書くことは、絶えず自己組織化を繰り返す私たちの特性と合致した働きを持っている。自己が絶えず自己組織化を繰り返すというのは、絶えず新たな意味を創出する現象を含んでおり、書くことはまさにこうした意味の創出を支える。

意味を創出することを宿命づけられた私たちにとって、意味を創造することが滞ってしまうという現象は、自己システムを不健全な状態に導いてしまうことにつながる。私たちは自らの存在について著述することにより、自己治癒と自己変容を遂げていくのではないかと改めて考えていた。

今日は確かに専門書と論文を旺盛に読み進めていったが、常に心にゆとりのようなものがあつた。欧州での二年目の生活が始まって以降、何度も心のゆとりについて言及してきたように思う。

心のゆとりがあることによってしか成し遂げられぬことが存在しており、心のゆとりが日々をより充実したものに感じさせていると改めて思う。私の特性として、ついつい様々なことに慌ただしく従事してしまう傾向があるので、意図的にゆったりとした時間を持つことが大切になる。とりわけ、仕事とは直接的に関係のない探究や実践をすることがどれだけ大切であり、それらがどれほど人生の質を豊かにしてくれるかは欧州の二年目の生活で強く意識され始めたことである。

---

今はちょうど日本で言うところの年度末に該当し、佳境に入った協働プロジェクトがいくつかあるため、少しばかり慌ただしい日々を過ごすこともあるが、四月からは心のゆとりについてはより意識していく。

これからの数年間は、もしかするとあまり悠長なことを言っていられないのかもしれないが、できるだけ心にゆとりを持たせ、仕事とは直接に関係のない探究や実践にじっくりと向き合っていく。そして是非ともこの数年以内に少なくとも一度、100日間ほど船でゆっくりと世界を一周したいと思う。船旅への憧れは昨年の年末あたりに芽生え、それ以降何回か世界一周の船旅について調べている。

昨日も何かを思い出したように、どの船に乗り、どのような航路で船旅を行うかについて調べていた。内側に流れる自分固有の時間に立ち返り、その時間の中を生きることがいかに大切なことであるか。それが難しくなっている慌ただしい現代社会において、自らの固有の生命時間を味わいながら生きることはとても贅沢なのかもしれない。しかしそれは本来贅沢なことではなく、当たり前のことだったはずなのだ。

自分固有の生命時間に立ち返り、その時間の中で心にゆとりを持たせながら日々を過ごしていくこと。それは四月から、いや明日からまた心がけていくことにしたい。フローニンゲン:2018/3/11(日)  
20:31

#### No.861: Reflection on Today's Work

I completed arranging the data format based on my supervisors' feedback.

Next Monday, I'll calculate the spectral slope of each data set. Since I determined to focus on each lecture in a week instead of the whole lectures in a week, I can obtain more detail information of the contents. However, I realized that I could not utilize standardized dispersion analysis for the data that has less than 32 data points.

Considering this issue, I'll detect the spectral slope of each lecture. Then, I'll conduct statistical analysis. Groningen, 17:25, Friday, 3/16/2018

---

## 2243. 11日目のインターン

今朝、六時半に起床してみると、辺りはすでに薄明るくなり始めていた。日の出の時間がますます早くなっている。

ちょうど再来週の月曜日の明け方に、欧州はサマータイムに入る。サマータイムがやってくると、季節が本格的に春に入ったことを知る。だが、今週末は再び気温が下がり、最低気温はマイナスとなるようである。本当の春がやってくるまではまだ少しばかり時間がかかるようだ。

今、書斎の窓の外から小鳥の鳴き声が聞こえている。数羽ほどの小鳥が何か会話をしているかのような鳴き声だ。

今の私の脳と心は非常にくつろいでいる。リラックスした脳と心を持って今日の活動に取り掛かりたいと思う。

本来、今日はインターン先のオフィスに行く日であるが、今日はオフィスには行かない。その代わりに、自宅で研究を進めていく。というのも、今日は何かオフィスのある建物でミーティングが行われるわけではなく、また今日予定しているデータ分析であれば自宅で行えてしまうからである。

オフィスの行き帰りは良い気晴らしになるが、それでも往復だけで一時間かかり、外出する準備も考えると、意外と時間を取られていることに気づく。そうしたことを考えて、今日は自宅の書斎で研究を進めていくことにした。

今日は先週の金曜日に引き続き、最後となる三つ目の定量化基準を用いてデータを定量化し、定量化されたデータに三つの分析手法を適用する。金曜日の段階で定量化を開始しているため、今日の午前中にまずは残りの定量化を終えたいと思う。そして午後から、得られた時系列データのフラクタル次元を特定し、特定されたフラクタル次元と対象とするMOOCの完遂率とテストスコアの相関関係などを見ていく。

午前中の定量化が一番時間がかかると予想しており、それが終わり、午後からの分析はこれまでの他の二つの時系列データに対して行ったものと全く同じであるため、それほど時間はかからないだろう。三つの分析が終わったら、今週の金曜日に行われる予定の分析結果の報告ミーティングに

---

---

向けて資料を練り直す。今回の研究インターンで行う分析は、今日までの三つの定量化基準に基づくものに留め、ここからは今回の研究の背景や分析結果をまとめるためのレポートの作成に取り掛かりたいと思う。フローニンゲン:2018/3/12(月)07:13

#### No.862: A Reticent Wind

A tranquil wind was blowing today. The wind was “reticent,” and it let me feel pious. Groningen, 20:15, Friday, 3/16/2018

### 2244. この世界に仕える存在として

早朝、いつものように一日分のコーヒーを入れた。今日もコーヒーを片手に、ゆっくりと一日の活動を始めたいと思う。

今日は午後から雨が降るようであり、今も空は曇っている。一羽のカラスが赤レンガの家の上空を飛んで行った。

私はよくカラスの行動を観察することがある。彼らの狡猾な行動を見ていると、必ず何かしらの発見があり、それが発見的笑いをもたらす。

先ほどはあいにく、カラスが視界を横切る姿しか見るができなかったため、特に面白い発見はなかった。ただし、カラスの黒と雲の白とが見事なコントラストをなしていたのは確かだった。

コーヒーが出来上がり、早速一杯ほど飲もうと思ってコップに注いでいる時、開けた窓から優しく流れ込んできた春の香りとモーニングコーヒーの香りとが見事な調和をなしていることに気づいた。こうしたことにも至福さを感じることは十分にできるのである。また、カラスの行動を観察することによって得られた発見から笑いが起こり、それによっても至福さがもたらされることを忘れてはなるまい。

今日の研究に取り掛かるまでにあと一時間ほど時間があるため、少しばかり作曲実践を行いたい。音楽言語の世界にしばらく浸った後にプログラム言語の世界に浸る。そうした世界の行き来が今朝は好ましいように思う。

---

昨日の夕方、成人発達に関する専門書を読み進めている最中に、「自己は全体としての一つの社会に仕える存在なのだ」という気づきが芽生えた。これはこのところ感じていた、世界からの促しに応じて生きるという発想に近いものがある。

自己はどうやら自己の本質とこの世界とを繋ぐ媒介者であり、世界への奉仕役を務めることが求められていることを私は強く感じ始めている。そうした感覚の芽生えに応じてか、自らの仕事に関して、社会的な共有資産を作り、それを残していくことに大きな意義を感じ始めている。逆に言えば、それを実現する仕事しかもう取り組まないようにする、という考えさえ芽生えてくる。

日々の研究にせよ、協働プロジェクトにせよ、それらが何らかの形として社会の共有財産になるように日々の取り組みを進めていく。それは日記や作曲に関しても同じであり、自分の全ての活動をこの世界からの促しのもとに行い、この世界に仕える存在として毎日を送りたいという気持ちを持った。今日のこれからの作曲も研究も、そうした思いが具現化されたものになるだろう。フローニンゲン：  
2018/3/12(月)08:36

#### No.863: A New Journey

I'm pondering the essence of our life that is a series of new journeys. We always experience a new voyage everyday. It is the essential aspect of our life. Don't you think so? Groningen, 11:23, Saturday, 3/17/2018

#### 2245. 標準化分散解析の理解

書斎の中にバッハのアヴェマリアが鳴り響く。それに共鳴するかのように、夕方から突然激しい雨が降り始めた。今も激しい雨が降っている真っ只中である。フローニンゲンを覆う雨雲から垂直に地上に降り注ぐ雨は、とても美しい。まるでそれは世界を洗い流すかのような光景である。

ひと月前までは雨が降ってばかりであったが、ここ最近は一日の活動中に雨が降ることはほとんどなかった。そのため、こうした激しい雨を見るのは久しぶりのように思う。遠くの空を眺めてみると、雨雲の切れ目があり、そこから夕日が地上に差し込んでいるのが見える。自分がいる書斎の目の前では激しい雨が降り、遠くの場所には夕日が差し込むというのは風情があっていい。

---

今私はとても幸福な気持ちに包まれている。聞こえてくるアヴェマリアも、視界に入る雨の景色も、それらが全てこの幸福感を生み出すことに力を貸しているようだ。

今日を振り返ってみると、今日も非常に研究がはかどった。今日はインターン先のオフィスに行くことなく、自宅でデータ分析を進めていた。昼食後に全てのデータ分析を終え、三つの定量化基準で得られた結果を比較してみると、随分と興味深い発見事項が得られたように思う。ここからは、MOOCの講義のトランスクリプトのみならず、1000人を超す受講者のオンライン上のコメントを定量化し、そのデータに対して同様の分析手法を適用していく。いかんせん受講者の数が多いため、コメントの数も多く、データの収集には時間を要するだろうが、このデータに対する分析結果も非常に楽しみだ。

昼食後にデータ分析をひと段落した後、夕方からは今週の金曜日に行うミーティングに向けて準備をしていた。具体的には、先々週にインターンのアドバイザー二人に送った分析レポートに手直しを加えていた。特に、エスター・ボウマ博士からのフィードバックが非常に参考になり、彼女の質問に答える形で分析レポートをより洗練させていった。「標準化分散解析 (standardized dispersion analysis: SDA)」についてはレポートの中でほとんど説明をしておらず、この分析手法についても簡単に説明を加えておいた。

また、この分析手法については、インターンとは別の研究でも活用する予定であり、研究アドバイザーのミハエル・ツショル教授もこの手法についてより詳しく知りたいと以前のミーティングの際に述べていた。そのため、夕方から二、三本の論文を読み、SDAについてレクチャーができるようにしておいた。例えば、10個のデータポイントをその場で適当に作り、そのデータポイントに対してどのようなプロセスで分析が行われるのかを説明できるようにしておいた。端的には、SDAの背後にある数式を理解し、その数式を具体例を用いながら説明できるようにしておいた。これは昨年「複雑性とダイナミックシステム」のコースでラルフ・コックス教授から習った手法であり、当時の講義資料を見ながら再度自分で具体例を考えることによって、手短かにその分析プロセスを説明できるようにしておいたことは今度どこかで役に立つであろう。

非線形ダイナミクスの手法というのは、必ず見慣れない数式が絡むが、そのほとんどの手法はプログラミング言語のRを用いれば、何も苦勞することなく解析結果を出すことができる。しかし、いざそ

---

の一つ一つの手法に関する分析手順と分析メカニズムを説明せよと言われるとなかなかできるものではない。SDA以外にも、今後の研究で用いる手法については、今回のように簡単な具体例を自分で作りながら説明できるようにしておきたいと思う。

今日も研究の合間に、科学的な研究は今日はこれぐらいにして哲学探究を行いたいと思う自分がいたが、こうした非線形ダイナミクス的手法を活用した発達研究・教育研究に関するコースであればどこかの大学で講義を受け持ちたいと思う自分もいた。そうした講義を自分が受け持つのは随分と先のことかもしれないし、意外と早くにやって来るかもしれない。とにかく、今日のように一つ一つの手法の意味を丁寧に理解していくことと、何よりそうした手法を実際に活用した研究を積み重ねていくことをこれからも続けていきたい。フローニンゲン:2018/3/12(月)18:07

#### No.864: Doll's Day

I tried to recall a Japanese holiday in early March, but I didn't specify it. Suddenly, I remembered that it was a doll's day on March 3rd. I can hear the famous song for the festival in my mind.

Groningen, 14:13, Saturday, 3/17/2018

#### 2246. この世界の使者として

夕方に降り始めた雨がすっかり止み、今はひっそりとした夜が訪れている。どうしてこうも神聖さをこの夜に感じるのだろうか。「この夜」というのは、今過ごしている場所で経験している夜全てのことを指す。

毎夜毎夜一日を振り返ってみた時に、全く異なることを振り返っていることは驚くべきことではないだろうか。一日たりとも全く同じ振り返りをする日がないというのはなんということだろうか。同じ振り返りをしたくてもできないのだ。それは、人間として新たな一日を毎日生きていることの証なのかもしれない。全く同じ日はなく、全く同じ思考や感覚が浮かぶ日もない。そして、全く同じ自分である日もないのだ。この事実はいつも私を驚かせる。

今日も少しばかりこの現実世界からはみ出すような感覚を経験した。自分の認識の世界の淵に立ち、そこからずっとあちらの世界に入っていくかのような感覚があった。私は行っていたデータ分析

---

の手を思わず止め、そちらの世界からこちらの世界を見ているような感覚に陥った。「どうもやはり自分はこの世界に仕えているようだ」ということが改めてわかった。自分は使者なのだろう。

この世界から自分が受託した事柄が何なのか、徐々に見え始めている。日々の一つ一つの行動は、この受託した事柄を全うすることにつながっているのだ。

こちらの世界からあちらの世界に入っていくというのは、依然としてとても不思議な感覚である。あちらの世界からこちらの世界を眺めてみれば、こちらの世界の光景が全く異なって見える。それは自分に対しても当てはまる。自己の存在というものをあちらの世界から眺めてみれば、こちらの世界で自己を捉えているようには自己を捉えることはできない。

こちらの世界から見える自己というのは、せいぜい自己の本質に付着した付随物程度のものであろう。一方で、あちらの世界から見える自己というのは、自己の本質、もしくは裸体としての自己だ。さらには、自己がこの世界から受託された事柄の輪郭のようなものも知覚することができる。

今日もこれから静かに一日を終えていく。とても黙想的な夜だ。

一日が終わることは、再び新たな自己が誕生することを意味する。今日の自己から明日の自己に至るための小さな差異と自己保存機能こそ、変容を促すものであり、それと同時に、急激な変容を阻止するものなのだと思う。

人はゆっくりとしか進めないのである。欧州で生活をすることによって、時間をかけて進むことの意義、そして自己の内側に時間そのものを堆積させていくことの意義を掴んだように思う。

ゆっくりと進行していく時間の中で、自らの内側にゆっくりと時間を浸透させていくことの大切さ。とにかく一つ一つをゆっくりと積み上げていくように、ゆっくりと刻み込んでいくように、明日からもまた新たな一日を生きたいと思う。フローニンゲン:2018/3/12(月) 19:47

---

## 2247. 来季からのプロジェクトについて

今朝は五時半に一度目を覚ましたが、そこで起床することはなく、結局七時前に起床した。季節の変わり目に差し掛かっているからだろうか、ここ数日間はいつもより睡眠時間が長くなっているように思う。何らかの調整が心身に起こっていることがわかる。

七時前に起床してみると、辺りはすでに薄明るくなっていた。天気予報を確認すると、今日は午前中と午後の始めまで雨のようだ。また、今週末のインターンの日には雪が降るらしい。

今週の金曜日からは最低気温が再びマイナスとなる。少し暖かくなったと思ったら、また冬に戻ったかのようである。そうした日々にあって、今日も自分のなすべきことを前に進めていきたいと思う。今日は午前中に、協働プロジェクトに関する仕事が二件ほどある。

今季のプロジェクトは無事に終わりそうであり、来季からもまたこのプロジェクトを土台にした新たなプロジェクトが始まりそうであることは喜ばしい。改めて、現在進行しているプロジェクトと来季からのプロジェクトについて考えていた。どのようなプロジェクトを来季に行っていくかを改めて確認することは、諸々の整理につながるだろう。大きなプロジェクトで言えば今季に行っていた二件ほどが来季にも継続されそうだ。そして、もう一つ大きなプロジェクトが始まるかもしれない。時間的にも費用的にも中規模なものとしては、二つのプロジェクトに取り組むことが決まっている。

その他、共著で書籍の執筆に取り組んでいる事柄も含めると、来季も非常に充実しているように思える。学術研究との兼ね合いから、今後はどのようなプロジェクトに参画するかをもう少し吟味した方がいいかもしれない。今のところ、プロジェクトに参画させていただく際の基準のようなものを自分の中で少しばかり設けているのだが、そうした基準をより明確なものにした方が良さそうだ。

日々が真に充実しているという感覚は、協働プロジェクトだけに従事しては得られず、学術研究やその他のライフワークと同時に従事することによって得られるものである。また、来季は秋から活動拠点を欧州から米国に移す可能性もある。そうしたことを考えてみると、来季は再度新たな出発を経験することになるかもしれない。人生というのは本当に出発の連続であるようだ。フローニンゲン:2018/3/13(火)07:32

昨夜の睡眠時間は申し分なかったのだが、今朝方に見た夢は少々暴力的な内容だった。夢の中の身体のみならず、夢の外の身体にも攻撃的なエネルギーが強く宿っていた。

今朝の正式な目覚めは、そうした攻撃的なエネルギーを発散した直後であったことを改めて思い出す。私はこうした夢を時々見るのだが、自分の攻撃性の根源が何であるかはまだ掴めていない。自分でも少しずつ気づき始めているが、こうした攻撃的なエネルギーというのは自己を突き動かすための重要な役割を果たしている。つまり、それは単純に攻撃的な害のあるものなのではなく、自分の活動を支える非常に重要なものなのだ。

ただし、注意をしなければならないのは、こうした攻撃性は無自覚なまま日々を過ごすことであり、このような攻撃性に飲み込まれてしまうことは避けなければならない。そうしたことから、自分の内側にある攻撃性の拠り所のようなものは早めに特定しておいた方が良さそうだ。だが、以前からこうした問題意識はあるものの、一向に攻撃性の根源が何なのかはわからない。この点についてはさらなる省察が必要であり、最適な方法は、こうした攻撃性が現れた瞬間瞬間に考えを深めていくことだろう。

最も適したタイミングは夢でそれが現れた時だと思うが、今日のように夢の内容そのものはすぐに滑り落ちてしまう可能性もあることに注意が必要だろう。また、一風変わった観点として、そもそもその攻撃性は自らの根源を明るみにされたいのか、という攻撃性の立場に立つことも大事かもしれない。繰り返しになるが、自分の中に潜む攻撃性というのは自己を突き動かす根源的なエネルギーになっており、その根源を明るみにすることによって、攻撃性が持つ本来の力を発揮できなくなってしまう恐れもあるかもしれない。

攻撃性の根源が明るみになることによって、そのエネルギーがさらに活性化されるのか、それともエネルギーが減退してしまうのかはわからない。できれば、後者に陥ることを避け、真にそのエネルギーを解放させることにつながるように、攻撃性の根源の探求を続けていこうと思う。おそらくこれは、創造エネルギーと呼ばれるものと何か密接に関わっているのではないかという予感がある。無から有を生み出す際の爆発というのは、こうした攻撃性の背後にあるエネルギーの発散現象と似ている。

---

また、有と有を組み合わせる際にも、時としてこうした力強いエネルギーが必要なこともあるように思える。自分の内に秘められた攻撃性というのは、ひょっとすると創造性と置き換えていいものなのかもしれない。

もちろん、すぐさまそうした置き換えをしていいものではないと思うが、そうした側面は多分にあると言えるだろう。今は「攻撃性」と名の付くものを、真に「創造性」と呼ぶためにも、自分の内側に潜んでいる攻撃性についてはもう少し深く理解する必要があることは確かだ。

書斎の窓から見える空は、うっすらとした雲に覆われている。それは雨雲ではないのだが、天気予報によるとこれから午後にかけて雨が降るらしい。開けた窓から、数羽の小鳥が鳴く声が聞こえて来る。今日も様々な気づきと発見に満ちた一日になりそうだ。フローニンゲン:2018/3/13(火)07:55

#### 2249. 技術的・精神的なスキヤフォールディング

先ほど少しばかり雨が降ったが、今は雨が止んでいる。天気予報を確認すると、どうやらこれからまた雨が降るようだ。

今日はこれから一件ほど協働プロジェクトに関する打ち合わせがある。それが終われば、午後からは久しぶりにゆっくりとした時間を過ごすことができそうだ。

午前中に二つほど小さな仕事に取り組み、それらは無事に終了した。午後からは、作曲実践に時間を充て、成人発達に関する専門書を少しばかり読み進めたい。

気がつけば、作曲実践を始めてから数ヶ月が経った。作曲を志したのはそれよりも少し前のことなのだが、実際に曲を作り始めたのはまだほんの少し前の話である。

音楽知識が全く無い状態から作曲を始めたため、まだまだ多くの学習と実践が必要なのは確かである。むしろ、私は作曲に関する学習と実践をまだ本格的に始めていないような段階にあるため、ここからさらに継続的に作曲と向き合っていきたいと思う。そうした中、過去の偉大な作曲家が残した作品は、自分にとって、本当に優れた教師だと思う。彼らの楽譜は多大な支援を私にもたらしてくれている。一つは、当然技術的な事柄においてである。作曲技術について、一つの作品は多くの

---

ことを教えてくれる。メロディーラインの創出方法、転調の方法、ハーモニーの創出方法など、挙げればきりが無い。楽譜を分析的に眺め、実際にその曲を真剣に聴くことによって、そうした技術的な事柄が徐々に見えてくる。

怠惰な姿勢で対象と向き合っていないは何も見えてこず、真摯にある対象と向き合っただけで見えてくるものがあることを教えてくれる。作曲の技術的な事柄については、これからも積極的に吸収できるだけのことを吸収していきたいと思う。

二つ目として、過去の作曲家が残した楽譜は、技術的な事柄のみならず、作曲の持つ喜びと作曲に取り組む励ましのようなものを私に与えてくれる。まさにそれらは、作曲に関する私の精神的な支えになっている。スキヤフォールディングというのは技術的な事柄のみならず、多分に精神的なものでありうることを教えてくれる。こうした恩恵を絶えず享受し、それらに感謝をしながら今日も作曲実践に取り組んでいきたい。

今日はベートーヴェンの曲に範を求め、時間が許せばバルトークの曲にも範を求めたいと思う。とにかく実践を通じた技術の練磨を念頭に置き、それに合わせて理論書も少しずつでいいので継続的に読み進めていくようにしたい。ゆっくりと着実に前に進んでいくのはなんでも一緒だ。フローニンゲン:2018/3/13(火)11:05

#### 2250. 季節の変動と協働者の方との対話より

少しばかり濃い灰色をした曇り空を、多くの黒い鳥たちが飛んでいる姿が目に入った。書斎から眺めてみると、それらは黒い鳥のように見えるが、彼らが腹を返して方向転換する瞬間を観察してみると、どうやら白いカモメのような鳥かもしれない。それにしても、随分と多くの鳥が今空を舞っている。天気予報が裏切られる形で、今日はそれほど雨が降らなかった。

早朝に天気予報を確認してみたところ、今週の金曜日は雪マークが付されており、雪の中を歩いてインターン先のオフィスに行くのは少し面倒だと思っていた。しかし、たった今天気予報を再度確認してみたところ、どうやら金曜日は曇りのようだ。ただし、最高気温は3度、最低気温はマイナス5度のようなものである。そして、土曜日は最低気温が0度、最低気温はマイナス6度との予報である。

---

この予報もどこまで正確なものかはわからないが、いずれにせよ、季節はまた冬に逆戻りしたかのようである。天候というのは本当に興味深く、それを季節というマクロな観点で捉えてみると、季節の変化は人間の内的変化と変わらない特徴を持つのではないかと思う。季節が経験する行きつ戻りつするこの変化のプロセスは、人間の内的変化のプロセスと瓜二つである。季節も私たちも、このように行きつ戻りつを経験しながら、ゆっくりと次に向かっていくのだ。

聞くとところによると、東京は随分と春らしくなってきたそうだ。今日は昼食前にある協働者の方と打ち合わせをする機会があった。もうコートは不要であり、来週あたりにはそろそろ桜も咲き始めるかもしれないとのことであった。今日の打ち合わせを通じて、協働者の方から自分の専門領域以外のことを色々と教えていただくことになった。

人財育成に関する理論や方法に関して、近年のトレンドも含めていくつか自分の知らないことを教えてもらった。協働をすることの一つの意義は、このように自分の知らない事柄について教える機会を得、そこから自分で探究を広げていくきっかけを得ることだろう。

協働の意義についてより本質的なものを挙げていけばきりが無いのだが、今日はとりわけ、協働者の方と対話することによって随分と新たな発見があったことを書き留めておく。備忘録としては、ネットワーク型の対話実践の話題は興味深く、ネットワーク科学の観点と方法論はこうしたことにも有益だということを知った。また、アセスメント開発と、アセスメントによって得られた時系列データの解析とそこからの提案という一連の流れに基づいた、実証的な人財育成施策の立案支援にも自分の関心があるのだということに改めて気づいた。

こうした気づきをもたらしてくれたのは、協働者の方との対話だった。今後も誰にも見えないところで静かに仕事を継続していきたいと思っているが、こうした協働者の方たちの存在とそこでなされる対話というものを今後も大切にしていきたい。フローニンゲン:2018/3/13(火) 16:39

#### No.865: A New Day and New Meaning

A new day in my life began also today. It indicates that I have to ponder the meaning of my life in a new way. Groningen, 08:44, Sunday, 3/18/2018